

第21回「芥川作曲賞」

山内雅弘氏の作品

「そらのかたち形象」ピアノとオーケストラのための に決定

第21回「芥川作曲賞」は、8月28日（日）午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、山内雅弘氏作曲の「宙の形象」ピアノとオーケストラのための に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団（現・公益財団法人 サントリー芸術財団）が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第19回受賞者・藤倉大氏の受賞記念サントリー芸術財団委嘱作品 オーケストラのための「トカール・イ・ルチャール」の日本初演が行われました。

▽第21回芥川作曲賞

山内雅弘（やまうち・まさひろ）

<贈賞理由>

音楽の発想、オーケストレーション、構成、それらが一体となって、人間精神＝魂に迫る力強い作品となっている点が高く評価された。

<略歴>

1960年仙台生まれ。1986年東京芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。クルーズ国際ピアノ会議作曲コンクール第1位、シルクロード管弦楽作曲コンクール入賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選、文化庁舞台芸術創作奨励賞、第16回朝日作曲賞（吹奏楽、合唱組曲）。第2回東京佼成ウインドオーケストラ作曲コンクール第1位。作曲を本間雅夫、北村昭、八村義夫、南弘明、松村禎三、黛敏郎の各氏に師事。現在、東京学芸大学教授。

第21回芥川作曲賞 選考経過

1. 2011年3月29日（火）午後1時より東京都港区、ANAインターコンチネンタルホテル東京において第1次選考会を開催。2010年1月1日より2010年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下3作品を「第21回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は、伊左治直、新実徳英、湯浅譲二の3氏。（50音順）

◆清水卓也 作曲 アンサンブルのための「三十六角柱の表面にある宇宙」
初演：2010年1月5日 愛知県立芸術大学奏楽堂
愛知県立芸術大学第633回学内演奏会

◆田上英江 作曲 「ダブル・カレ」オーケストラのための
初演：2010年10月26日 東京オペラシティコンサートホール
第79回日本音楽コンクール本選会

◆山内雅弘 作曲 「宙の形象」ピアノとオーケストラのための
初演：2010年10月20日 東京芸術劇場 大ホール
オーケストラプロジェクト2010

（50音順）

2. 2011年8月28日（日）、午後3時よりサントリーホールにおいて上記3曲を公開演奏（指揮＝大井剛史、管弦楽＝新日本フィルハーモニー交響楽団）。

演奏終了後、ステージにおいて伊左治直、新実徳英、湯浅譲二 3選考委員による公開討議（司会＝白石美雪氏）を行った結果、「第21回芥川作曲賞」受賞曲に山内雅弘氏の作曲による「宙の形象」ピアノとオーケストラのための が選定された。

3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー芸術財団代表理事 堤剛より賞状、賞金（50万円）が授与された。
なお、山内雅弘氏にはサントリー芸術財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。（委嘱料100万円）

以 上